

「^{クレド}信仰宣言」

のカテケーシス

(IV) 「聖霊を信じる」

竹山昭

わたしたちは、父なる神に自分自身をうちまかせ、子である主イエズス・キリストに自らを託したように、「信仰宣言」の第二項で聖霊に自分自身をうちまかせる。すでに最初の回にふれたとおりである。

しかし、第三項で「聖霊を信じます」と信仰告白しながらすぐに気づくことがある。それは何かと言えば、父なる神やひとり子主イエズス・キリストの場合には、長短の違いこそあれいずれにも説明の句が付けられているのに、ここでは聖霊に何らの説明も付けられていないことである。

むろん、ほどなく次々にできていく、この洗礼の信条より長い形の諸信仰宣言では、聖霊が神であること、父と子よりのものであること、などが加えられている。しかしそれは、聖霊が被造物であるとの異端が出てきたり、東方教会（ギリシヤ語圏内の教会で独自の典礼を持つ）と西方教会の間の神学上の論争が生じたことへの対処のためであった。すでに父なる神やひとり子主イエズス・キリストの項が説明句を伴っていた二、三世紀には、聖霊には何らの説明も付けられていないのがふつうである。この事実には聖霊の特徴が示されているとは言えないだろうか。

一、固有の「顔」と名を持たない神・聖霊